

2-4 天然ガスコージェネレーション、分散型発電システム

(1) 導入目標

コージェネレーションシステムおよび分散型発電システムの導入目標は以下の表の通りです。分散型発電システムは地域冷暖房システムと組み合わせて発電時の廃熱を有効利用するもので、もう少し規模の大きいコージェネレーションシステムということができます。また、冬期のバックアップとして、バイオマスボイラーも組み合わせていきます。

表17 コージェネレーションシステム、分散型発電システムの導入目標(kW)

	2010	2020	2030
コージェネ 戸建	264kW (264 戸)	770kW(770 戸)	613kW(613 戸)
集合	40kW (4 棟)	420kW (42 棟)	800kW (80 棟)
事業所	900kW (18 棟)	1,800kW (36 棟)	2,700kW (54 棟)
計	1,204kW	2,990kW	4,113kW
分散型発電システム	0kW	5,000kW	20,000kW
バイオマスボイラー	0kW	0kW	2,000kW

(2) 2010 (平成22) 年までの施策

① ESCO事業 (省エネ請負) と組み合わせた導入

天然ガスコージェネレーションシステムの導入には、ESCOと結びつけた事業化を進めることで、主に熱需要規模の大きな公共施設や事業所・工場などでの中小規模システムの導入を進めていくことが考えられます。

率先行動を求められる公共施設での取り組みについては、上述のように2008年3月完成予定の新庁舎に対して当該システムの導入を計画しています。また、このほかにも熱需要規模の大きな給食センターや市民会館などにおいても、隣接する施設とのエネルギーのやり取りを前提にしながらコージェネレーションシステムの導入を検討していきます。

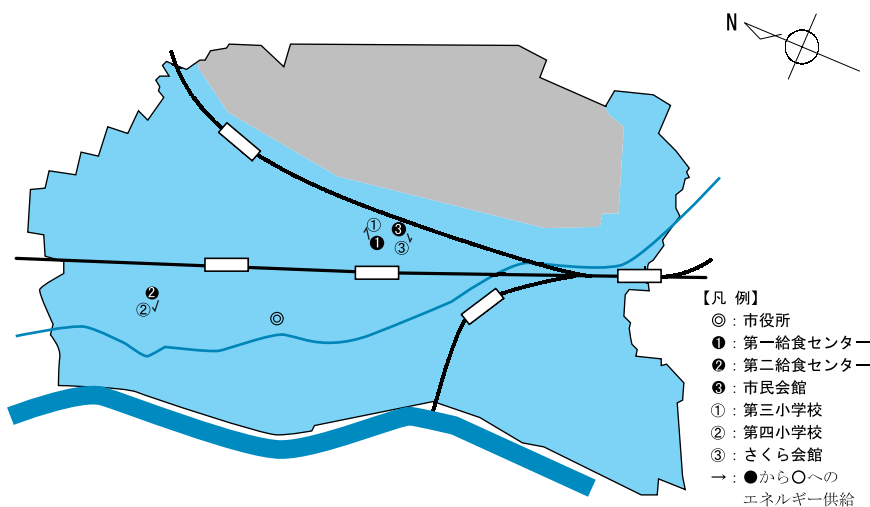


図4 天然ガスコージェネレーションシステム導入検討対象公共施設